

Fusyo Collaboration letter



9月 12日 No.24 文責 廣田 秀俊

教育実習 これからの未来を背負っていくために

9月第2週目に入り、実習生の授業も毎日のように各教室で行われています。

本校では、大分大学3年生が合計4週間の教育実習を行っています。その他にも1年生の時に教職入門ゼミを、2年生で教職展開ゼミを行い、教員養成を継続して行っています。

また、大分県で採用された初任の先生にアンケートを行い、現在の困りや状況などを教えてもらっています。近年では各校の管理職の先生にも協力を依頼し、教員採用後の先生の様子をアンケート方式で聞いています。その中で、本校に向けこのような声を届けてもらいました。

○教育実習や附属小への意見

- ・児童の教育、教員養成の大変さ 有り難い
- ・多くの実習生の育成に感謝
- ・大分大学出身者の頑張り 育てていただいて有り難い
- ・実習では子どもと交流して教師として働くことのやりがいを感じて欲しい(主体的な行動)
- ・大学で現場の仕事を伝える難しさ どう学生たちに伝えるか
- ・教員としての熱意とともに自分の心を開く心情を身に付けて欲しい 等



実習生は毎日懸命に、児童に、授業に、そして自分自身に向き合いながら学びを進めています。そこには、自身の描く未来像も浮かんでいるのだらうと思います。うまくいった授業もあれば、納得できなかった授業もあるはずです。

ただどの授業も、どの実習生にも児童はまっすぐに視線を送り、深く学んでいこうとする姿を見せてくれています。そのことが、実習生の明日への頑張りにつながっていると思います。



○採用後の教諭の困り

- ・児童との向き合い方
- ・自分から困りを聞くこと
- ・体力維持、健康維持ができる生活力
- ・先を見通した業務の進め方
- ・時間の使い方
- ・アドバイスのどれを取り入れるかの難しさ 等



採用後の困りについては、管理職の先生からこのような意見も聞いています。実習期間の中で、少しでも今後にかせるものを本校で実施していけるようにしていこうと、担当を中心に改善を進めています。今年度の実習生も、さまざまな視点を持ち、日々励んでいるところです。